

令和4年度第3回名取市協働事業審査会会議録

- 1 日時 令和5年2月16日(木)14時00分～16時30分  
2 場所 議会棟3階 第1・2委員会室  
3 出席者 秋月委員長、中島委員、小平委員(代理出席:藤原理事兼次長)、小畑委員  
事務局:浅野課長、渡邊課長補佐兼係長、川上主幹兼係長、浅野主事、八巻  
欠席者 林委員、菊池委員、青木委員  
4 会議概要 下記のとおり

- 
- 1 開会 進行:川上主幹兼係長  
2 あいさつ  
3 審査説明(報告プレゼンテーション)  
4 議題  
(1)令和3年度採択(令和4年度実施)名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて  
<休憩>  
(2)令和3年度採択(令和4年度実施)名取市協働提案事業評価審査  
5 その他  
(1)令和4年度実施した名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)の報告会について  
(2)令和5年度募集名取市協働提案事業について  
(3)市民協働課公式 Twitter 開設について  
6 閉会

- 
- 4 議題  
(1)令和3年度採択(令和4年度実施)名取市協働提案事業実施報告プレゼンテーションについて

<プレゼンテーション>

団体:和ごころコミュニケーションズ

協働した課:保健センター

「健康診査と学びのコラボ事業」減塩の実践的な取り組みについて、事業報告をいたします。  
和ごころコミュニケーションズは、伝統的な日本文化や食育に関する体験事業を通して、住みよい家庭づくりや安心な地域づくりを目指して活動している団体です。当団体は、名取市協働提案事業で、芹の親子体験イベントなど食に関しての体験型イベントを実施し、その中で宮城県の塩分摂取量がワーストワンであることを知り、保健センターとの協働提案事業で課題解決を目指すこととしました。名取市の課題としては、塩分摂取量が多いこと、減塩を促し健康意識を向上させたい、健診の待ち時間を有効

活用したいということでした。そこで、「健康診査と学びのコラボ事業～1gでも減塩してみませんか～」をテーマに7月19日から26日の8日間行いました。7時30分から12時30分の間に、1回あたり20分として、1日に6～8回実施しました。合計2727人の来場者がありました。実施した内容は、名取市の現状と減塩のきっかけづくりについて動画で説明、座ってできるストレッチ、減塩に関するパネル展示、減塩のリーフレットを作成し配布、減塩に関する意識調査のアンケートです。事業の成果としては、名取市の現状と体内の塩分量増加に伴う体の影響の周知ができ、学びを促すことができたこと、健診の待ち時間にリーフレットを読んでいただき有効活用できたことです。また、ストレッチは動画を見て行いましたが、スタッフも一緒に行ったことで、より多くの市民に参加してもらうことができました。アンケートでは、今後どのようなアプローチが必要か知ることができました。アンケートから見えた課題としては、減塩などプロジェクトの認知度が低かったことから、プロジェクトのPRが必要だということ、また、「減塩を意識している」や「改善している」という市民に向けた知識を高める応用のアプローチが必要だということです。今後は、今回実施した内容を踏まえて、令和5年度も協働提案事業として引き続き減塩をテーマに実施しますので、食生活改善のアプローチを継続的に続けていきたいです。また、団体としては、子ども食堂等の活動も継続的に行っていきたいです。最後に、当団体は、減塩により市民の健康意識が高まることで、長期的な視点で見て医療費の削減につながり、その財源が社会福祉の充実に有効活用されることを期待します。

#### <質疑応答>

委員：市民の方の感想を教えてください。

団体：動画やリーフレットを読んだ方から、「ラーメンを汁まで全部飲んでしたが、これからは気を付ける」や「動画を見て、これから気を付けてみようと思った」という声がありました。また、減塩をしようとは思っているが、どのようにしたらいいかわからないという方もおり、「参考にして実施してみる」という声もありました。

委員：印刷製本費が高いが、リーフレット代が高かったのですか。

団体：印刷製本費は、リーフレット代と動画作成代となっており、ビデオを制作会社に依頼したことで高くなりました。

委員：講話の内容は変化しているのですか。回数を追うごとに変えたのですか。

団体：動画に沿って説明しているので、内容は変更していません。

委員：ストレッチの内容は、団体で考えたのですか。

団体：協働する課からアドバイスをいただいて、団体で曲を選び、実践しやすいように考えました。

協働した課：行政提案型として、相談しながら実施しました。健診時には、関心を持って聞いていただきましたので、今年度の取り組みで出た課題を改善して、来年度実施したいと思っています。また、Ⅱ度高血圧の方が4%を維持しているため、この事業が反映できていると思います。

団体：峠の分校

協働した課：消防本部総務課

今回は、名取市消防本部総務課と協働して事業を実施しました。消防団の活動が市民に幅広く認知されていない、消防団員が減少しているという課題がありました。震災前は600人超えた消防団員が今は500人弱になっている現状です。そのため、この課題を解決したいと思い、事業を実施しました。当団体は、プログラミングのノウハウを持っている団体なので、課題解決のために、消防団の活動について子どもたちを対象としたプログラミングのワークショップを開催し、子どもたちがパソコンの中で地域の消防団に扮したアバターになって、消防団の活動を紹介するプログラミング動画作品を制作することで、

消防団の活動を知ってもらいたいと考えました。また、継続的に消防団の活動を周知するために、消防団の活動を動かせるパネルを制作しました。プログラミングのワークショップを実施するにあたり、アシスタントボランティアとして名取北高奉仕活動部に依頼し、6名に参加してもらいました。そのため、アシスタントボランティアの事前研修を5月6月に実施しました。その後子どもたちのワークショップを2グループに分け、7月から10月まで各グループ毎月1回実施しました。ワークショップを休んだお子さんには補講も行いました。制作した作品は、11月5日に行われた宮城県消防大会で展示しました。成果は、消防団の置かれている現状に意識を向け、家庭で話題となったこと、制作した作品を展示したことで、消防団の活動を知ってもらうきっかけになったことです。また、動くパネルは、今後の消防団の周知活動に活用が見込まれます。

#### <質疑応答>

委員：小学生を対象にPRすると消防団員の増加には時間がかかると思うが、消防団について子どもたちの反応はいかがでしたか。

団体：アンケートに、消防団員の活動の写真等を使ってプログラミングすることで、消防団員がどのようなことをしているのかわかったと感想がありました。

委員：消防団員や消防職員になりたいという声はありましたか。

団体：アンケートした際に、興味を持ったという回答がありました。

委員：実際に保護者から消防団に関する問い合わせはありましたか。

団体：女性でも消防団員になれるのかという問い合わせは1件ありました。

委員：消防団員が減少しているという情報はどのようにして知ったのですか。

団体：協働する課から情報をいただきました。

委員：パネルのデザインは、どのように考えたのですか。

団体：精神障がい者が社会と繋がるきっかけづくりも団体活動の目的としているので、会員へ作成を依頼しました。

団体：特定非営利活動法人地星社

協働した課：なとりの魅力創生課

名取の魅力を知ってもらうフリーペーパーを作ろうということで事業を実施しました。昨年度は、協働提案事業で市民ライター講座を実施し、市民ライターとなって魅力を発信する記事を書き、市ホームページに掲載しました。そして、講座受講者による地域ライター部が発足するという成果がありました。今年度は、昨年度の成果を踏まえて、自分たちで編集のノウハウを学び、自分たちでメディアを作って発信する事業です。内容は、講座を5回実施し、取材を行い、フリーペーパーを完成させるというものです。講師は、昨年講座の受講者の方で、フリーランスの編集者の方です。16名の参加者があり、講座では、編集や取材のコツを学びました。8月には、実際に取材に出向きました。取材した素材をまとめて、デザイナーとオンラインで打合せをし、原稿をチェックして完成させました。最後は、完成お披露目会を行いました。新聞にも取り上げられ、名取の魅力発信に役立ったと思っています。ヤフーにも記事が掲載されたので、奈良に住んでいる方からも問い合わせがありました。事業の成果としては、観光パンフレットとは違った市民目線のメディアの魅力発信ができたこと、また、市民が編集について学びクオリティの高い冊子ができたことです。参加者が講座を通して名取への愛着が沸き、新たな魅力の発見に繋がったことです。また、講座をきっかけに様々な地域活動にも関心を持つようになったり、地域ライターとして継続して活動していく方もいることです。団体としては、今後も市民ライターの活動を支援していきます。また、取材やライティングについての勉強会を実施していきたいと考えています。来年度は、協働

のまちづくり実験室として、地域で活動している人や活動している人同士を繋ぎ、協働を促進していこうと考えています。まちづくりの新たな活動を生み出したり、地域課題への取り組みに繋げていきたいです。

#### <質疑応答>

委員：このフリーペーパーはどのように活用するのですか。

団体：市施設以外に、市民ライター自身にも配布をお願いしています。

委員：どのような方が参加したのですか。

団体：様々な人が参加していますが、共通しているところは、名取を好きで何かを発信したいと思っているところでした。

委員：取材先の選定や依頼等、市との協働の役割分担はいかがでしたか。

団体：取材先を選定する際は、協働した課にアドバイスをいただき、相談して決めました。取材先への依頼や連絡等は、団体で行いました。市との協働提案事業と伝えることで、取材先に受け入れてもらいやすかったです。

委員：取材先は他にも候補がありましたか。

団体：イオンモールや宮農等がありました。

団体：特定非営利活動法人エフエムなとり

協働した課：なとりの魅力創生課

「地域自慢したいみんな集まれ！#市民押しかけ時報 CM 大作戦」として、なとりの創生課と協働して事業を実施しました。事業の概要は、各地区の魅力を発信するラジオ CM を制作して放送するものです。CM を制作する中に市民の皆さんの意見を取り入れたいということで参加者を募り、CM 制作ワークショップを開催しました。課題は、より多くの市民に響く PR スキームと郷土愛の醸成です。団体が持つラジオのノウハウとラジオ CM の特性を生かし、また、世代間交流による住民同士の結束力向上、顔が見える地域づくりに繋がると考え取り組みました。5月21日と22日の2日間ワークショップを実施し、11地区を2日に分けて行いました。一般的なラジオ CM は20秒ですが、20秒では魅力を伝えきれないということで60秒のCM にしています。さらに、時報ということで時間を決めて1日4回8時、13時、17時、21時にオンエアしました。放送は6月5日から18日までの14日間です。市役所庁舎では、7月1日から15日に1日1回13時に放送しました。事業の成果としては、ワークショップには、各日とも20名程度参加いただき、中には土曜も参加し、楽しかったということで日曜も参加する方もいました。延べ42名の参加でした。オンエア後の反響としては、初めての体験で大興奮した、面白くていい経験をした、子どもたちの声に癒されますなどの感想をいただきました。ここで、成果として1つCM を聞いていただきたいと思います。(閑上地区のCM 音声を流す。)このように、住民目線でピックアップされた各地区の魅力は暮らしに身近なものから市を代表するであろうものまで多岐に渡り、演出もバリエーション豊かなCM が完成しました。展望としては、コミュニティラジオとして全うしていきたいと考えています。

#### <質疑応答>

委員：成果として、事業の反響があったとのことですが、アンケートの結果等教えてください。

団体：今持ち合わせていませんが、参加者からは楽しかったという声が多かったです。「自分の声がラジオから聴こえてきて嬉しい」や「自分たちの地区を見直すいい機会となった」という声があり、参加者が楽しめた企画となりました。

委員:今後どのような活動を考えていますか。

団体:特定非営利活動法人から株式会社となったので協働提案事業ではないが、株式会社としてできることを企画して実施していきたいです。

団体:キラキラパーク増田西

協働した課:生涯学習課

「やってみよう!地域活動体験」の事業報告をいたします。当団体は、8年ほど増田川で子どもたちが遊ぶガサガサ体験を実施してきました。これは、団体が企画し、運営してきたものです。この事業は、子どもたち自身が企画実施する側になり、その楽しみを知ってもらいたいと考えて取り組んだ事業です。また、コロナ禍ということもあり、地域で集まることも少なく、地域の繋がりが希薄になり、子どもたちが地域活動に参加する機会が少ないので、その機会として実施しました。地域活動に関心のある小中高校生を募集したところ18名の参加があり、団体の活動を一緒に企画・運営をしました。団体としては、子どもたちのアイデアを生かしてサポートしました。実施した内容は、月1回企画会議を実施し、子どもたちからアイデアを出してもらいました。また、増田川の清掃活動を3回、8月にガサガサ体験を行いました。ガサガサ体験は参加者が30名おり、スタッフも含めると90名くらいの参加となって遊びました。11月の増田川観察会です。成果としては、子どもたちの地域活動への参加機会を行ったことで、感動体験に繋がったと思いますし、地域の良さを再確認できたと思います。ただ、子どもたちの活動をこどもファンドに応募できるまで促したいと考えておりましたが、1回ではそこまでは達成できませんでした。今後の課題となりました。また、活動のポスターを作成し、増田西公民館に展示しました。この後、名取駅東西自由通路に展示します。団体としては、今後も子どもたちの参加の機会を多く作り、世代間交流を進めながら、増田川を中心とした活動を継続していきたいと思っています。来年度は、活動を始めて10周年になるので、記念誌などを作るなど検討したいです。

#### <質疑応答>

委員:長い間青少年健全育成に関わっていて素晴らしいと思います。参加してくれた子どもたちの様子はいかがでしたか。

団体:これまで団体活動を実施してきて、参加してくれていた子どもたちが今回は企画する側として参加してくれた。ただ、今の子どもたちは忙しく、なかなか全員揃うことは難しかったのですが、楽しく活動してくれていました。

委員:団体として、次の展開等は考えていますか。

団体:来年度は10周年になるので、何か活動したいと考えている。川の掃除をしているとこんなものが落ちてくるのかということをお大勢の人に知ってもらいたいと思うので、気づいてもらう企画を考えたいと思っています。

#### <以下、非公開>

4 (2) 令和3年度採択(令和4年度実施)名取市協働提案事業評価審査

5 その他

- (1) 令和4年度実施した名取市協働提案事業担い手育成型(入門コース)の報告会について
- (2) 令和5年度募集名取市協働提案事業について
- (3) 市民協働課公式 Twitter 開設について

6 閉会

令和 5 年 3 月 16 日

委員長 秋月高太郎

